

学校と「ネットワーク協議会」会員団体とが連携協力した事例

化学とオリンピックのつながりを知る

場面 授業(世田谷区立尾山台中学校)
教育プログラム 「カガクのチカラ」(ダウ・ケミカル日本)

ダウ・ケミカルは、オリンピックのワールドワイドパートナー※として、化学の分野から、オリンピックの開催と開催都市を支援しています。今回、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されるに当たり、学校で教育プログラムを実施する教育事業を企画しました。「NPO法人じぶん未来クラブ」と協働で「カガクのチカラ」を作成し、NPOの担当者が、区内の教育支援コーディネーターに相談して、モデル実施が決定しました。

授業は、社員ナビゲーターと大学生スタッフが進行します。社員が1人ずつ入ったグループで10秒自己紹介をした後、アスリートが記録を伸ばしてきた裏にある「化学」について紹介していきます。シューズ、棒高跳びのポール、水着等の素材の開発によって選

手の能力を引き出してきたことに、生徒たちは驚きます。「化学」は苦手という生徒がいましたが、実験を含めた授業に引き込まれていく姿がありました。

後半は、社員の「お仕事ストーリー」として、社員が仕事の中で壁を乗り越えた経験談を聞きます。最後に今日の授業で感じたことについてグループワークで話し合い発表するという幅広い内容のプログラムでした。

生徒からは、「スポーツの記録を化学の力で縮めることができるなんてすごいと思った。」「あきらめないで、頑張ることの大切さを知った。」「一つの製品を作るのに、たくさんの工夫や努力が必要なることを知った。」等の感想がありました。

※IOC(国際オリンピック委員会)をサポートする世界規模のスポンサー。世界で13社。



陸上ホッケー競技の人工芝は、色を変えてポールを見やすくしています。



2つの物質を混ぜ合わせると、壁の断熱や車のシートに使われている物質ができました。

学校と「ネットワーク協議会」会員団体とが連携協力した事例

ファッション・デザインの仕事への思いを知る

教育プログラム

場面 高校生対象の夏休み期間の講座(校外、希望生徒)
ファッション職業理解推進講座(文化服装学院 生涯学習センター)

新宿駅にほど近い文化服装学院では、毎年夏に高校生を対象とした3日間の講座を開催しています。今年で10回目となるこの講座は、ファッション業界の今と、ものづくりの魅力を伝え、ファッション業界に関わる様々な職種の方と高校生が接することができる機会となっています。他県からも参加者があるこの講座に、今年度は都立高校5校、都立葛飾ろう学校の生徒が参加しました。

<平成29年度の実施内容>

1日目 7つの講座(ファッション業界の仕事とは、子供から高齢者、障害のある方のファッション、IT・IoTを活用した新しい製

造業の形、バレエ衣装の世界 等)

2日目 2つのコースに分かれてバスで訪問

○ファッション産業・縫製工場、日暮里繊維街、アパレル企業等

○「手に職」のちから・染色工場、シェアファクトリー、高級服直し職人工房等

3日目 先輩クリエイターとの交流、知的財産について、振返り

葛飾ろう学校からは、昨年度は教員のみが参加しましたが、今年度は2名の生徒と、通訳として教員も参加しました。

生徒からは、「工房を見学して、「服づくりは人づくり」という社

法が心に残った。」

「実際に働いている

方達から率直な話を

聞けて良かった。」

「どの職種でも、

ファッション全体の

知識がなくてはなら

ないことがわかっ

た。」等、この講座で

出会った多くの方の

ファッションへの思

いが伝わる体験に

なったようです。



一点ものの縫製工場では、若い職人への技術の伝承について説明を聞きました。



振返りのグループ発表。大切なのはチームワークと感性を磨くことと意見をまとめました。